

財団法人慈圭会 慈圭病院

武田 俊彦, 堀井 茂男



はじめに

1952年、当時の精神科医療に対して人道的見地から疑問を抱き、その改革を思い立った5名の有識者によって開設されたのが慈圭病院です。開院当時から慈圭病院の理念は、「わが子でも安心して任すことのできる精神科病院」であり、今日に至るまでこの理念は、病院運営の基調として受け継がれています。現在この病院理念の遂行のために次の5つの目標（五大基本原則）を掲げています。

1. 慈愛の医療（ひとりひとりの患者様に、慈愛と尊敬のころころをもって快適な医療を提供します。）
2. 最先端の精神科医療（急性期医療からリハビリテーション、地域支援まで、良質で、最先端の、根拠に基づいた精神科医療を実践します。マンパワーを豊かにし、多職種専門性を結集します。）
3. 最高水準の医療倫理（ヒューマニズムに根ざした最高水準の医療倫理を保ち、安全、安心と納得の医療を提供します。）
4. 積極的な地域貢献（地域との連携を密にし、精神科基幹病院とし

での役割をはたします。こころの医療の理解とよりよいこころの健康の推進のために、病院内外での教育、普及活動を積極的に行います。）

5. チャレンジ精神（私たち病院スタッフ全員は、常にチャレンジ精神を持ち、さらなる挑戦、実践を重ねていきます。）

病院概要

平成20年9月3日で開院55年を迎える病院の概要は次のとおりです（平成20年1月時点）。

標榜科目：精神科、神経科、歯科
 施設：600床（岡山県指定病床20床、精神科急性期治療病棟55床、老年性認知症疾患治療病棟50床、精神科療養病床273床）、デイケア施設（定員140名）、作業療法棟、研究棟、居住型リハビリ施設（福祉ホーム、グループホーム、共同同居）
 人員：総職員数408名、医師26名（精神保健指定医10名、病理医1名）、看護職員数263名、臨床心理士2名、作業療法士18名、精神保健福祉士14名、薬剤師9名、栄養士7名、臨床検査技師7名

治療実績：2007年の年間入院数735名、2007年下半期の平均1日外来数201名、平均月新患者数32名

許可承認事項：厚生労働省協力型臨床研修指定病院、日本医療機能評価機能認定

現在の病院活動は下記のサイトでも紹介されていますのでご覧ください。

<http://www.zikei.or.jp/>

<http://iryu.sanyo.oni.co.jp/kikaku/visit/visit.html>

慈圭病院のこれまで

慈圭病院は、昭和27年9月3日に現在と同じ岡山市浦安の干拓地に設立されました。開院日の陣容は、医師3名、総職員22名で、総病床数72床でした。当時全国の精神科病院数はまだ173と少なく、72床は当時としては平均的な精神科病床数でした。開院時の院長伊原重彦には、「精神障害者であっても、お互い人間である以上は、できるだけ自由を認め、患者との接触を多くし、愛情を持って接すれば、必ず医師、看護者、患者のお互い相通ずるものがあり、精神の興奮、不安、種々の悩み等を和らげることができる」との信念があり、この慈愛に満ちた自由で開放的な精神が病院全体の共通認識として現在まで踏襲されています。そして昭和37年には当時としては先端的な終日開放病棟を建設し、この病棟には当時全国から見学者が集まりました。昭和39年時点での開放率は既に57%で、その値は昭和45年の全国平均20.8%よりもはるかに高い数値でした。

慈圭病院は、開院当初から特長として、精神科医療に作業療法やレクリエーション療法を積極的に取り入れてきました。昭和20年代には農耕や園芸が主であったのが、昭和35年50坪の作業棟が完成し作業種目も次第

に増えました。現在では、利用者が地域へ帰ることを目標に、利用者の生活機能障害を改善する方向で、精神科作業療法・リハビリテーションが再編成されつつあります。現在当院は、この分野で県内トップクラスの規模と機能を有しています。

また、昭和40年の慈圭病院家族会の設立、昭和41年の患者自助組織「八起会」の結成、昭和46年のアルコール依存症治療システムの立ち上げ、昭和47年の慈圭病院断酒会の設立など狭い意味の医療だけでなく、精神科医療に必要な資源の開発・育成も積極的に行ってきました。

昭和29年頃から公益事業として計画されていた精神医学研究所は、昭和33年から本格的な活動を始めました。開設以来現在に至るまで岡山大学神経精神医学教室の研究者との共同研究や意見交換が神経病理や精神薬理学の分野で行われてきています。また、昭和43年には厚生省臨床研修指定病院に指定されました。当時、精神科単科での指定は全国で10病院しかなく、私立では2病院だけでした。

開院後20年目（昭和47年）の病院の概要は、9病棟総病床数528床、総職員数180名で、医師数12名、看護職員数117名でした。開院20年間で慈圭病院の基盤はほぼ完成しました。

社会復帰施設の拡充は当院の医療の重要な柱でした。慈圭病院では、昭和51年に病院の隣接地に救護施設「浦安荘」の建設、昭和57年共同住居を設置し、当事者の社会復帰を積極的に支援してきました。この流れは現在でも5ヵ所のグループホーム開設、平成13年の福祉ホーム「コスモス」建設、平成15年の共同住居グループホーム複合型施設「あおば」建設へと続いています。

精神科デイケアは、昭和49年に通所者10名で試行的に始められまし

た。その後徐々に利用者が増え、昭和54年には専用棟が建設されました。そして翌55年に国の認可を受け、利用者の増加に伴って平成4年に定員100名、平成10年に140名にまで増員しました。デイケアでは、開設当初から充実した医療環境を確保すると共に、地域の企業や商店と連携した就労支援にも積極的に取り組んできました。

このような急性期医療の充実化や社会復帰に向けた取り組みの結果、新患者も増加し、在院日数も次第に短縮化してきました。しかし一方で、入院患者の増加、それも若年患者の増加、認知症患者の増加、身体合併症患者の処遇の問題、さらに入院日数が短期化と長期化の二分化の問題などが浮上し、それまでの受け入れ病棟体制や閉鎖・開放比率では対応が次第に難しくなってきました。これらの問題を解決すべく、平成13年4月に新病棟を建設し、新体制を開始しました。同時に、デイケアと連動して長期入院者の退院へ向けての包括的な取り組みを行う社会復帰病棟を立ち上げました。さらに、平成15年には精神科急性期治療病棟を開設し、急性期医療をさらに充実させました。平成18年には、デイケア部門と院内作業療法部門という2つのリハビリテーション部門を有機的に連携させ、急性期から地域医療までリハビリテーションの継続性が保てる総合的リハビリテーション施設「養浩館」(体育館併設)が完成しました。これによって、精神科急性期医療から慢性期、精神科リハビリテーションを経て社会への再参加まで継ぎ目のない医療が完成しました。

今後の慈圭病院は

現在、慈圭病院が目指すのは、今以上に広く市民に開かれた病院へと

発展することです。残念ながら単科精神科病院の敷居はまだ高く、一般市民のみならず精神科以外の医療関係者にとっても身近でない特殊な医療機関という印象を持たれていることは否定できません。偏見と無関係でないこの問題を克服していくことは、こころの問題が増加しつつある現代社会においては、それを専門とする唯一の診療科の義務と考えています。私達慈圭病院のスタッフは、精神科医療の専門家集団を自負しております。現在の、「こころの時代」にこそ、私達はチャレンジする心を持って、医療のみならず、福祉、教育はもとより、産業保健、一般市民生活にまで最先端の精神科サービスを提供しようと考えています。



養浩館

(デイケア棟、作業療法棟、体育館を併せ持つ総合リハビリテーションセンター)



浦安小学校や地域との交流

(運動会や盆踊り大会、合同芋掘りでこころの病の偏見の打破に努めています)

平成20年2月受理
〒702-8508 岡山県岡山市浦安本町100-2
電話：086-262-1191 FAX：086-262-4448
E-mail：soumuka@zikei.or.jp
http://www.zikei.or.jp/